

防災 と ジェンダー

男女共同参画の視点で、防災対策・被災者支援の質を上げる …… P.2

地域の防災意識を高め、住みよい街づくりをめざす…………… P.4

いざという時のために知っておきたい「防災情報」…………… P.6

『まなこ』は文字通り「眼」。人やまちや文化や地球を、男女平等推進の視点＝「まなこ」で見ている！という思いで名付けられました。
1991年創刊以来、市民が企画・編集にかかわっています。

121号「男性の更年期障害って？」を読んで

令和6年度 第2回『まなこ』サポーター会議が
11月6日（水）に武蔵野スイングホールにて開催され、
活発な意見交換がされました。



◎私自身、女性として更年期にさしかかる年代だが、男性にも更年期障害があるということを初めて知り、新しい気づきを感じた。

◎一つのトピックに対して、医師の目線と、更年期ケアのインストラクターという違う立場からの切り口があり、ただの情報だけではなく、どのように生活を送っていったらいいのかという点まで落とし込まれていて良かった。

◎男性更年期の乗り切り方や秘訣、対処法に焦点が当てられていて、前向きに乗り越えていけるもの、という意が強調されていて良い。

◎読みごたえがあった。運動や食事の具体的な対策が書かれており、とても役に立つので皆さんに読んでいただきたいと思った。

◎AMSスコアにページを割いてしまったと編集委員の方が言っていたが、大事な内容なので良かったと思う。

◎表紙の紙飛行機と更年期障害が結びつかなかったが、なぜこのデザインになったのか気になる。

◎医学的な話は当然必要だと思うが、調べれば済む話でもある。永田さんが語られた社会的な問題をメインに据えて書くべきだったのではないかな。

「文 鶴田直哉」

男女平等に関する出前講座 「いのちのおはなしかい」

日時：令和6年 12月12日(木) 10時～11時
場所：武蔵野市立境南保育園
講師：大田静香さん（武蔵野市助産師会会長）



「こんなに小さかったんだ！」など、子どもたちのさまざまな発見や疑問をスタートに、成長していくことや命の大切さ・素晴らしさを学び、自分も友だちも、ともに大切にすることを話していただきました。



『まなこ』サポーターの
200字コラム

「防災とジェンダー」について

子ども視点の防災

城野理知

先日近隣の学校で「子どもたちが考える在宅避難」の調査を見ました。自宅が安全なら自宅で生活することを推奨する方針、在宅避難。子どもたちは「停電で夜が怖い」「水がなくなる不安」「いつまで家にいられるの？」というリアルな声を挙げていました。こうした不安を解消するには、まず家族で話をする。知らないことが一番の不安要因。日頃から家庭内で情報を共有することで、実際の災害時にも安全に行動できるきっかけになるなど。

ジェンダーの視点で考える防災

青木佳子

ジェンダーの視点で防災を考えた時に、一番初めに思い浮かんだ困りごととは着替えとトイレのことです。多くの避難所で着替えとトイレ等で問題があったと聞きます。

男女共同参画の視点で、行政が防災計画を作る時のメンバーを男女同数で行うことで解決できることがあると思います。誰一人取り残さないためには、幅広い年齢、身体の不自由な方などの多様な人々の意見を吸い上げ、防災計画を作っていくことが肝要と感じます。

Editors' Notes * 編集後記

近所の保育園で、園児たちが黄色い防災頭巾をかぶり、避難訓練を行っていました。ほのぼのとした光景でしたが、幼少期から防災意識を身につけさせるのも、大人の大切な役割だと思いました。（鶴田直哉）

災害時はみんなが被災者になるから、一人ひとりの事前の準備や心構えが重要だと改めて感じた。日頃から地域の特性や「コミュニティ」を知り防災意識を高めていきたい。（沼田仁子）
避難所は、行けば助けてくれる場所ではなく、互いに助け合う場所である。また、行けば必ず入れるという保証もないため、「自助」の重要性を感じた。今日からでもできる備えに着手したい。（根本愛）

防災とジェンダーの問題は、今までも見聞きして来たので知っているつもりでいたが、新たな気づきが多くあった。他人事にせず、これらの問題を周囲の人たちと共有していきたい。（羽柴更美）

備蓄ばかりに目が向き、備えは大丈夫と呑気なことを言っていたが、子どもの年齢が上がるにつれ、地域のつながりが薄くなるこの頃。自助・共助・多角的に備えを見直す機会となった。（久富明美）

* STAFF *

取材・編集 鶴田直哉 沼田仁子 根本愛 羽柴更美 久富明美
武蔵野市立男女平等推進センター担当職員

編集協力 栗原 毅

表紙デザイン ふじわりりわ

レイアウト 上田ジュンコ

印刷 PICOプリンティングイン株式会社

『まなこ』は市役所、市政センター、図書館、コミュニティセンター、駅、医療機関、理美容院、大型店舗、金融機関など市内の約490か所に置いてあります。バックナンバーをご希望の方は、男女平等推進センター「ヒューマンあい」まで。

*配布は、公益社団法人武蔵野市シルバー人材センターのご協力を頂いております

市ホームページでもバックナンバー
をご覧いただけます。

武蔵野市 まなこ



防災とジェンダー

くり返される災害に対し、私たちは日々ごろから正しい情報を知り対策をとる必要があります。性別や年齢など置かれている状況はそれぞれ異なります。多様な視点から防災について考えてみませんか。

男女共同参画の視点で、防災対策・被災者支援の質を上げる

日本各地で起こる災害。今、大切なことは何か。災害とジェンダーをテーマに、さまざまなフィールドで活動されている浅野幸子さんにお話を伺いました。

災害時の女性特有の困難と社会背景

災害は被災者に大きな影響をもたらしますが、性別、年齢、障害の有無、経済状況などさまざまな要因によって、その困難の内容は異なります。

女性特有の問題には、女性用衛生用品の不足、妊産婦の医療支援の不足に加え、プライバシーの欠如、DVや性暴力などといった安全面の心配もあります。

しかし、一番の課題は家事、育児、介護といったケア労働ではないでしょうか。

一般的に、医療・保健・福祉・保育などに関わる専門職の割合は女性が高く、また家庭においても乳幼児の保育

策から発災後の被災者支援にいたるすべての段階において、意思決定の場に女性たちが参加できるようにすべきです。

今後は高齢化が加速していき、支援できる人が少なくなっていくでしょう。支援の効果効率を上げていくためにもジェンダーの視点を入れ、被災者の命と健康に直結する不安や困りごとを可視化し、皆で取り組むことが重要です。内閣府男女共同参画局は、2020年に『災害対応力を強化する女性の視点』男女共同参画の視点からの防災・

避難所の運営体制・運営ルール	
運営体制	☐ 管理責任者には男女両方を配置している ☐ 自治的な運営組織の役員に女性が3割以上参画している ☐ 運営組織に、多様な立場の代表が参画している ●介護・介助が必要な人 ●PTA ●障害者 ●中学生・高校生 ●乳幼児がいる家庭の人 ●外国人(居住者が多い場合)
運営ルール	☐ 避難者による食事作り・片付け、清掃等の負担が、特定の性別や立場の人に偏っていない(男女を問わずできる人で分担) ☐ 女性用品(生理用品、下着等)は女性担当者が配布を行っている
ニーズ把握	☐ 避難者から要望や困りごとを受けられる仕組み体制がある(トイレ等への意見箱の設置) ☐ 女性や子育て・介護中の家庭の要望や困りごとを積極的に聞き取り、運営に反映させている ☐ 避難者名簿を作成し情報管理が徹底されている (氏名、年齢、性別、健康状態、保育や介護を要する状況、避難場所、在宅・車中泊、外部からの問い合わせに対する情報の開示/非開示の可否) ☐ 相談体制の整備、専門職と連携したメンタルケア・健康相談が実施されている

『災害対応力を強化する女性の視点～男女共同参画の視点からの防災・復興ガイドライン～』より一部抜粋

被災者の声をすくい上げる

支援にあたるには、ガイドラインなどで知識を得たうえで現状を知ることが必要です。

2024年の能登半島地震の際、高齢者の多い地域では生理用品だけでなく、尿とりパッドなどの高齢者向け衛生用品が必要だったという話を聞きました。

私が現場に入った2016年の熊本地震の時にも、子どもに合うサイズのおむつが手に入らないという乳幼児を抱えたお母さんがいて、近くにある別の物資倉庫に行ったらすぐに見つかるということがありました。

その時々で被災地や被災者のニーズは違います。それらを集約すべきではあるのですが、そのような人材がいな場合、必要な物資が目の前に来てい

調を招く場合があります。そうすると高齢者、障害者、子どもたちに影響が出るという負の連鎖を生み出してしまふのです。

また、経済的な問題もあります。女性是非正規雇用が多いため災害時に解雇されやすい傾向にあり、保育、介護支援が不十分な中での仕事探しは大変な労力を要します。平時時から貧困率が高い母子家庭は、より困難な生活を強いられることになり問題は深刻です。

一方、男性の場合、災害支援活動の責任者や地域のリーダーなどを担うことが多く、意思決定に関わる一部の男性に過度な負担の集中が起こる傾向があります。また、過労死、孤独死、自殺のリスクは男性が高いといえます。

男女共同参画の視点での防災政策について

男女共同参画体制で防災政策に取り組むということは、被災者支援や災害対策の質を全般的に上げることにつながるということです。

前述したように、良いことではあり

ても皆さんが声をあげないと届かないという事態が起きてしまいます。

しかし、「困っていることはありますか?」と尋ねても、遠慮やがまんをして言わない女性が多いのも現実です。ハンドマッサージなど、女性に受け入れられやすい支援の中で本音をきいて支援につなげるといった活動もあります。

熊本地震では、意見を出しやすいように自治体がトイレに意見箱を設置し、その内容を改善案につなげていたそうです。被災者の声を聴くにも工夫が必要です。

災害に対して私たちが心がけておくことは?

公助がしっかりと動くためにも、自助と共助による備えや協力・連携が大切になります。いざという時に物資や支援活動がスムーズに機能するためにも、皆で協力し合うことが不可欠です。

その為には普段から自分の住んでいる地域のことを知る。行政支援はもちろん、民間団体との連携や、どこにどのような施設があるかなどを調べておくといでしょう。そのうえで市民も政策提言などの必要な声をあげていくことも大切です。

また、平時時から色々な人と関わりを持つということも大事です。仕事、子育て、介護などによってライフスタイルはさまざまですが、自分と違う生き方をしている人と壁を作らず交流を



あさの さちこ
浅野幸子さん

減災と男女共同参画研修推進センター共同代表。早稲田大学地域社会と危機管理研究所招聘研究員。阪神・淡路大震災の被災地での4年間の支援活動を契機に防災に取り組む。その後も市民団体で働きながら大学院に進学。博士(公共政策学)。専門は災害社会、地域防災、災害とジェンダー・多様性。福祉防災認定コーチ。内閣府『避難所運営等避難生活支援のためのガイドライン』『男女共同参画の視点からの防災・復興ガイドライン』など国・自治体の政策にも関わる。

ませんが、現実として衛生・育児・介護などの多くは女性が担っているのです。その視点が入らなければどうにもならない。

ところが、避難所運営の責任者や支援物資の管理者に男性が多いため、女性に必要なものがなかなか入ってこない、プライバシーや安全面で避難所の環境が適していない、そう感じても女性とは相談しづらい、という問題が起きます。

それらは意思決定の場や運営の中心に女性が入ること改善できると考えられていますので、平時時の防災対

持つことをお勧めします。

ご近所づきあいや趣味とかの仲間以外にも、女性・子ども・障害者支援団体、性的マイノリティ、外国人などの当事者団体とも交流を持って、災害時にどうするかという話を日頃からできるといいですね。誰かとつながると、また他の誰かともつながり、仲間が増えます。多様なつながりを作ることには皆で協力する基盤になります。

普段からお互いの困りごとを発信し合うなどして、災害時に自分たちが支援活動を引き張っていく意識を持つて欲しいと思います。

ジェンダーの視点、多様な立場の人々の知見と能力が生かされるよう、誰もが発言力をもって活動でき、それぞれの能力を発揮できるようにしていくことが、地域と社会全体の防災対策や被災者支援の質の向上につながるのです。

【取材 久富明美／取材・文 羽柴史也



災害対応力を強化する女性の視点
～男女共同参画の視点からの防災・復興ガイドライン～



避難所運営等避難生活支援のためのガイドライン (チェックリスト)

* 固定的性別役割分担意識 「男は仕事・女は家庭」、「男性は主要な業務・女性は補助的業務」等のように、性別を理由として役割を固定的に分ける考え方のこと。
* 性的マイノリティ 「出生時に判定された性別と性自認が一致し、かつ性的指向は異性」というパターンに当てはまらない人々のこと。

地域の防災意識を高め、 住みよい街づくりをめざす

地域防災をサポートする武蔵野市の防災課に、市の災害への備えと、市民が命を守るために今からできることや心構えについて伺いました。

——市として特に危険性が高いと考える災害と、男女平等の視点を取り入れた防災対策の現状について教えてください。

松盛さん 武蔵野市は地震と水害の2つが特に危険だと考えています。地震については、令和4年に都が公表した東京の被害想定より、日野市と昭島市の境界付近を震源とする「多摩東部直下地震」が、冬の夕方、風速8m、震度6強で起きた時に最も被害が大きくなるとされています。

市川さん 水害についてですが、武蔵野市は大きな川がないため、川の氾濫よりも都市型水害、いわゆる内水氾濫のリスクの方が高いと考えています。内水氾濫にならないためにも、側溝に落ち葉が溜まってしまったり流れる水が減ってしまうので、雨の時は掃除をするなど気にしていただければと思います。

松盛さん また男女平等の視点を入れることは重要であり、避難所の運営

4日目以降は、6か所の避難所救護所にて医師が巡回し診察などが受けられるようになっていきます。

避難所に行く、行かないについては、発災直後は全住戸の危険度を判定することが難しいため、あくまで個人の判断となります。まずは広い場所（避難所や公園などの一時集合場所）に逃げ、その後可能な方はいったん自宅に戻って損壊状態（家の中の散乱具合と建物の倒壊具合）を確認し、少しでも生活するのが難しいと感じたら避難所に行ってみようという考えです。可能であれば、住み慣れた自宅でも生活しながら必要物資を避難所に行く方が望ましいです。

市川さん そのために、家庭の備えとして、まずは「食料」「水」「トイレ」の3つを最低3日分用意していただくようにと日ごろからお伝えしています。

松盛さん 市の防災意識調査では、食料や水は6〜7割の家庭が備えていますが、トイレの備えは3割程度しかなく、トイレへの意識が低いことが分かります。しかしトイレは最も深刻な問題になりやすいです。また、家具転倒防止金具などを設置して在宅避難できるようにする環境を整えておくことも重要です。

市川さん 生理用品、オムツ、ミルク、離乳食、哺乳瓶、入れ歯、日頃から飲んでいる薬、杖の予備、アレルギー対応食、*ハラルフードなどは非常時には

に女性が参画することが有効だと考えます。

市川さん 以前は、避難所の運営という男性主導になりがちでしたが、過去の災害から女性の視点が必要だと分かりました。武蔵野市の「避難所運営の手引き」には、避難所運営委員会には女性を加える、生理用品の配布は女性が行うようにする、授乳スペースを作っておくなど、さまざまな配慮の仕方を示しており、それに沿った対策を進めています。

松盛さん 避難所計画には「おもいやりルーム」というものがあり、避難されてきた方の中で特に配慮が必要な人（女性や妊産婦、高齢者など）が利用できるスペースの準備を進めています。また、防災課では女性職員を増やし、正職員の4分の1が女性です。

市川さん 避難所運営組織も13組織中2組織は女性がリーダーになっていて、組織の構成員も女性が増えてきました。



手に入りやすいように、個人の特性により備えが必要です。

——地域防災は、市民同士で助け合う「共助」という考え方が重要だと思えます。

松盛さん 自主防災組織は地域の人の防災意識を高めるのが目的ですが、お互いに挨拶をすることで地域の人の顔を知るといった目的もあります。私たちはそういった自主防災組織結成の手助けを積極的に行っています。武蔵野市は特に自治会が少なく、地域の人のつながり

——市の「備蓄」や、その他の備えについても教えてください。また、いざ発災したとき、避難所に「行く」「行かない」の判断に迷う市民が多いと思います。その点についてはいかがですか。

市川さん 市では、避難所には1か所あたり最大1000人が避難し、発災後4日目には物流が戻ることを想定して準備しています。物資については、在宅避難者を含め1600人が生活できる量（3日分×避難所20か所）を備えています。また、特別な配慮が必要な方のために、オムツや生理用品なども備えています。

松盛さん トイレは市内の小中学校18校に、下水道直結で震度7に耐えられるトイレを10基ずつ用意しています。1基あたり50人の使用を想定していて、「一般用」8基、「だれでも用」2基に振り分ける予定です。

市川さん 10基のトイレとは別に男性

が弱いため、近所の人がお互いに知っているとという体制を整えたいと考えています。

市川さん 「共助」において大切なことは自主防災組織に入っていたかどうかですが、ハードルが高いと感じる人もいます。周りの関係になることで、周りに高齢者や体の不自由な人がいることを気づいてもらえるので、それが災害時には有効です。今日からでも

ぐにできることなので、始めてみてほしいです。

避難所の運営は、基本的には避難所運営組織の13団体が行います。震度5弱以上で、市役所の職員、学校関係者や避難所運営組織が参集して、避難所をみんなで運営していくことになっています。

松盛さん 避難所を開設する前のルール決めや、どんな避難所にするのかを事前に考えていくことも重要です。地域の特性を活かすルールを決めていく必要があるため、自主防災組織に



武蔵野市 防災安全部 防災課 消防防災係 松盛さん 市川さん

の小使用のトイレも取り入れているので、視覚的に男女の別が分かるように表示することも大切だと考えます。

松盛さん 水については、各学校にある井戸水を利用しますが、不純物を浄水器で取り除いて生水にすることで、飲み水としても使用することができ

医療については、発災後おおむね3日間程度は、緊急医療救護所（市内の災害拠点病院、災害拠点連携病院の近接地など）で*トリアージをし、その後重傷者・中等傷者などケガの程度に応じて搬送します。発災後おおむね

は地域の方に積極的に入っていただいています。また、発災時は避難所運営組織が主体となって、受付や安否確認など、担当を割り振ってやっていきますが、その場で動ける人が動くというのがお互いの共通認識になっています。市民の皆さんも避難所に来た時にはそういう意識を持って、ぜひ積極的に協力していただきたいです。

市川さん 避難所の運営は、地域の方と行政のお互いの協力がなければできません。避難所に来る人はみんなが被災者です。だからこそ1人ひとりの助け合う気持ちが大切です。

* * *

このように、防災には「自助」「公助」「共助」の連携が必要だということが分かります。いざという時のために武蔵野市もさまざまな対策を進めていますが、自身の命を守るために最も重要になるのが「自助」です。自分の命は自分で守るという意識を持ちながら、備蓄の見直しや家具転倒防止金具の設置など、今日からできることは取り組んでいきたいですね。

「取材 鶴田直哉 沼田仁子／取材文 根本愛」

*内水氾濫 大量の雨に対して排水機能が追いつかずに、処理しきれない雨水や土壌や建物に水が浸かってしまう現象。

*トリアージ 多数の傷病者を傷病の緊急度や重症度に応じて治療優先度を決めること。

*ハラルフード イスラム教の人が宗教上食べることを許された食品。

いざというときのために 知っておきたい「防災情報」

自主防災組織のご紹介

「一小地域防災ネットワーク」は、武蔵野市立第一小学校（一小）に避難所を開設するために立ち上がった避難所運営組織です。順調に避難所開設ができるよう分りやすくマニュアル化することを目指し、さらに学校・防災課と避難所利用計画について毎年協議しています。現在、共助の取り組みとしては毎年「西公園なかよし祭り」での防災訓練や、一小での「避難所開設訓練」を行っています。多くの地域住民に関心を持っていたけるよう日々努力中です。

（一小地域防災ネットワーク・鬼頭さん）



市内には避難所運営を行う 13 団体を含む自主防災組織 78 団体があり、各地で活動しています。（2024 年 4 月現在）

詳細は、下記、防災ハンドブックをご確認ください。

【動画】防災課の職員が解説します！



災害に備えよう！防災ハンドブック



東京備蓄ナビ



家族構成などの簡単な質問に答えるだけで、各家庭に応じた必要な備蓄品目・数量の目安を確認できます。

武蔵野市家具転倒防止金具等購入費補助事業



地震災害の自助の取り組みとして効果が期待される家具転倒防止対策について、全世帯を対象に家具転倒防止金具などの購入費用を、1万円を上限に補助します。

むさしの防災・安全メール



市からの緊急情報をパソコンや携帯電話のメールで受け取れるサービスを実施しています。

ヒューマンあい だより

●男女平等推進団体の登録・更新について

男女平等社会の実現に向けて活動している市内団体を「男女平等推進団体」として登録しています。団体登録をすると、会議室の優先利用や補助金などの活動支援を受けることができます。詳細はホームページをご覧ください。

講座報告

●（全3回）文章カトレーニング講座～的確に伝えるコツを学ぼう～

日時>令和6年11月29日 12月6、13日（金）10:00～12:00
場所>市民会館 男女平等推進センター会議室
講師>中村泰子さん（雑誌『くらしと教育をつなぐ We』編集長）

男女平等の視点を交えつつ、わかりやすい文章の書き方からインタビュー・取材・編集のコツまで、幅広い内容を講義いただきました。参加者同士で取材をし、その内容をまとめたインタビュー記事を講師に添削してもらうことで、文章力向上のヒントも学びました。



TOPICS

講座の開催情報など、センターからのお知らせをホームページで情報発信しています。

アクセスしてみてください。



ホームページ



「まなこ」バックナンバー

●幸せに生きるための性の学び～思春期と家族～

日時>令和7年2月9日（日）14:00～16:00
場所>市民会館 集会室
講師>村瀬幸浩さん（元一橋大学・津田塾大学非常勤講師）



性について「話す」「教える」が難しい思春期の子どもの性について学び、子どもたちを「育む」ために、大人が保護者の立場から考えました。

相談窓口のご案内 相談無料 秘密厳守

◆女性総合相談

女性が暮らしの中で抱える様々な悩みについて、女性の専門相談員がお話を伺い、解決に向けて一緒に考えます。夫やパートナーとのこと、家族のこと、職場や学校でのことなど、どんな些細なことでもかまいません。誰かに話すことで、気持ちが楽になることもあります。お気軽にご相談ください。

【相談方法】面接・電話による相談
【相談時間】1回 50 分／予約制

第1土曜日	①13:00～	②14:00～	③15:00～
第2金曜日	①18:00～	②19:00～	
第3月曜日	①14:00～	②15:00～	
第4火曜日	①9:00～	②10:00～	③11:00～

◆女性法律相談

離婚・扶養（養育）・相続などの法的な対応や手続きについて、女性弁護士が相談に応じます。

【相談方法】面接による相談

【相談時間】1回 30 分／予約制

第1土曜日	①9:30～	②10:10～	③10:50～	④11:30～
-------	--------	---------	---------	---------

申込み方法▶「ヒューマンあい」窓口または、電話にて予約を受け付けます。
予約電話番号▶0422-37-3410（木曜・年末年始を除く午前9時～午後10時）

◆むさしのにじいろ相談（性自認・性的指向に関する相談）

セクシュアリティ全般や性自認・性的指向に関する悩み・相談に専門相談員が応じます。ご本人のみならず、ご家族や支援者の方などからの相談にも応じます。一人で悩まず、まずご相談ください。

第2水曜日	17:30～20:30
-------	-------------

▶電話相談：0422-38-5187 ※予約不要
▶面談をご希望の方はこちらへご予約ください。
0422-37-3410

BOOKS

男女平等推進センターの蔵書から 貸し出しています！

『ファインダー越しの3.11』

安田菜津紀 佐藤慧 渋谷敦志著（原書房）

被災地でカメラを構えることは不謹慎ではないのか。写真なんか撮っている場合か。東日本大震災の惨状を前に葛藤する3人のフォトジャーナリストたち。一方で、被災者が瓦礫の中から必死に拾い集めているのもまた、写真である。「せめて写真の中だけでも会いたい」と。スマホで気軽に写真を撮れる時代。なにげなくシャッターを押した、その中の一枚が、時にかけがえない生の証となることを教えられる。震災直後の絶望的な状況が伝わり、読み進めるのをためらうほどだが、著者の希望と再生の祈りに思いを新たにしたい。あの日を絶対に忘れない。一年が巡りくるたびに読み直したい一冊。

〔文 鶴田直哉〕



武蔵野市立男女平等推進センター「ヒューマンあい」ご利用案内

〒180-0022 武蔵野市境2-3-7 市民会館1階 開館時間：午前9時～午後10時（木曜・年末年始 休館）
電話：0422-37-3410 FAX：0422-38-6239 Eメール：danjo@city.musashino.lg.jp